

令和3年(2021年) 5月18日

西宮市議会議長 澁谷 祐介 様

建設常任委員会

委員長 大原 智

建設常任委員会施策研究テーマについて(報告)

本委員会では、令和2年8月19日開催の委員会において、「近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について」を年間の施策研究テーマと定め、調査・研究をしてまいりましたので、御報告申し上げます。

1 近年の河川災害から見た武庫川整備の現状について

令和2年10月8日及び令和3年4月27日に委員会を開催し、市当局より、本市の現在の取組状況や課題等の説明を聴取するとともに、質疑、委員間協議等を行い、意見要望を伝えました。

また、令和2年11月16日には、兵庫県より県土整備部武庫川総合治水室並びに西宮土木事務所の職員をお招きして、武庫川整備の現状についての勉強会を開催し、管内視察として武庫川河川敷を訪れ、工事の状況について調査を行いました。

さらに、令和3年4月27日に、西宮土木事務所の職員をお招きし、武庫川整備の現状についての勉強会を開催しました。

当該施策研究テーマに対する各委員の個別意見は別紙のとおりです。

以 上

近年の河川災害から見た
武庫川整備の現状について

大原 智委員長

武庫川は、想定氾濫区域内人口と資産が全国1位であり、万が一氾濫した場合は、当然ながら、尼崎、西宮、宝塚、伊丹の都市部の被害損害額も全国1位となることが予想される重要河川である。

武庫川周辺にお住いの市民の皆様にとって、これらは、決して他人事ではなく、安心、安全の暮らしを守る対策をお待ちになっておられる。

令和元年10月の台風19号並みの豪雨となった場合は、武庫川の氾濫は、もはや想定外ではなく、兵庫県もその可能性を試算したうえで、前倒しの対策に取り組んでいる。

具体的には、武庫川下流部では、河口からJR神戸線までの5キロメートルの区間で、低水路拡幅、橋梁かけ替え、河床掘削等、流下能力を向上させる工事を進めている。また、南武橋から仁川合流点までの区間で堤防強化を行っている。

これらは、私たち委員会でも実際の視察で確認することができた。

一方、武庫川は二級河川であることから、管理は兵庫県の管轄となっている。

そこで、現場感覚をもって、身近な小さな声を聴きながら対策を打つことを強みととらえ、市民とともに関わっていくべきである。

市当局には、改めて兵庫県と連携を図り、武庫川水系河川整備計画に基づく治水対策事業を着実に進めるように要望を続けてほしい。

尚、この整備計画の策定にあっては、当初、武庫川ダム建設も検討されていたが、新規ダムの建設は、環境保全に配慮したとしても、ダム選択への社会的な合意形成に多大な時間を要することに加え、完成するまでに十数年と時間を要し、その間は整備効果を発揮できない課題から、武庫川下流部築堤区間における安全性向上に対応でき、早期かつ着実に整備効果が発揮できる、河道掘削や堤防強化等の河川対策や、学校等の敷地に雨水を一時的に貯留する流域対策を実施するほか、洪水の発生に備えた減災対策を加え、総合的な治水対策を進めることとした経緯があったことも学んだ。

市民の命を守る対策には、タブーなく、あらゆる可能性を検討すべきだと考える。

よって、新規ダムについては、次期整備計画の策定において、その必要性の議論を排除せず、検討が継続されるよう、市当局には、積極的に関わることを要望しておきたい。

やの 正史副委員長

不安を感じている自治会、住民に対して武庫川の整備について定期的に広報、説明を行う。

武庫川の下に川の水量を減らすための水路兼道路をつくって、普段は南北道路として利用し、何百年に一度の大雨の時は道路を水の逃げ道として活用する。

川村 よしと委員

正直に申し上げて、相手方が県であることや、勉強会等での質問に対する回答が「工事はこのまま進める」「住民の合意形成のために西宮市、市議にも協力して頂きたい」という内容に終止していたことから考えるに、こちらから何かを提言するという段階は既に過ぎたというのが率直な気持ちです。

工事の優先順位に関して、「住民の合意形成が済んだ所から開始する」ということでしたが、より危険な所、災害時に被害の規模が大きくなると想定される所など、論理的な説明をもって優先順位をつけるべきではないかということは、委員会や勉強会の度にお伝えしてきましたが、この場をお借りして改めてお伝えしておきます。

また、近年の状況から、今後は更に大雨による災害が大きくなっていくと考えられます。こうなると、河川の工事というよりはダムの建設を考える方が良いのではないのでしょうか。こちらの住民の合意形成については、論理的に説明できる材料があれば、もちろん前向きに協力させて頂きたいと思います。

河本 圭司委員

私は、兵庫県の「武庫川水系河川整備計画」を支持します。

計画の特徴である“2つの原則”

“流域内での種の絶滅を招かない”

“流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する”

は、将来にわたってとても大切だと考えています。

武庫川流域の治水の問題では、2018年9月の台風21号並みの大雨等に備えて、ダムを建設する事が望ましいといった声もあります。

しかし、想定をこえる大雨の際、多くの予算をかけて建設したダムを守る為に緊急放流をして大洪水を招いてしまった地域の事例もある様にダムだけに頼る治水では安心出来ない気がしています。

現在の兵庫県の行っている武庫川水系河川整備計画の様に河川の整備や堤防補強、貯留施設・遊水池の設置、水田や森林保護・涵養など総合治水で備え、流域の市町村では、氾濫の監視の強化や、避難訓練等を日頃から行い、減災を含む総合治水に取り組む必要があります。

いざという時、効果的に避難出来る様に市民参加の武庫川づくりと防災対策が求められている様に考えます。

草加 智清委員

平成5年から12年くらいまでは、毎年全国のどこかで大型台風による豪雨や線状降水帯による豪雨などの自然災害が頻繁に発生しなかったことと、平成9年の河川法改正の流れや、世間全体というか全国的に自然環境に与える影響が大きいというダム反対の声が大きくなっていった経過がある。しかし、現在のように梅雨時期から台風シーズンになると毎年全国どこかで、線状降水帯による豪雨や大型台風による大きな被害が発生している状況に合わせて、年々発生率が上がっている南海トラフ巨大地震がいつ発生するか分からない現状も無視できない。令和元年に県のシミュレーション（試算）結果で、東日本台風（台風19号）級の豪雨が降れば、武庫川は現在取り組んでいる総合治水対策工事が完成していたとしても氾濫する可能性が高いことが裏付けられたことを鑑みると、現在取り組んでいる総合治水対策工事は、ダム工事と違って住民からの反対もほとんどないので進めやすいが、大変長い時間と費用がかかることも事実である。

令和12年か9年に、これまでの総合治水対策工事が完了してからの後の工事方法については、これまでの総合治水対策工事だけでなく、ダム建設工事も積極的に含めるように検討すべきである。

自然を守ることは、もちろん大切だが、武庫川沿線の住民をはじめとする多くの住民の生命と財産を守ることは行政の使命である。

よって、ダム建設か総合治水対策のどちらかに決めつけずに、ダム建設と合わせて、総合治水対策を進めていく可能性がある。ダム建設だけでは、補われない堤防強化などを含めた補完的な災害対策を合わせて進めていくべきである。

花岡 ゆたか委員

2019年の台風19号と同等の雨が、武庫川流域で降った場合のシミュレーションで武庫川では氾濫の可能性がある事が明らかになった。氾濫の可能性があるまま進められている現在の河川整備計画では、不安が残る。兵庫県に、武庫川ダムの早期建設を求めるべきである。

町田 博喜委員

武庫川の想定氾濫区域内の人口と資産は、国の管理河川を含め全国で10位となっており、二級河川では全国1位となっています。したがって、武庫川が一旦氾濫すれば相当な被害が出ることは言うまでもありません。

近年の河川災害として、平成16年10月の台風23号、平成26年8月の台風11号などによるものがありますが、東日本に甚大な被害をもたらした令和元年10月の台風19号並みの雨が兵庫県に降ったとの想定では、武庫川も氾濫の恐れがあったとされています。

現在、武庫川の整備は、平成23年から令和12年の20年間で河道対策や洪水調整施設の整備、流域対策などが進められているところであります。

今後、想定外の降雨量があったとしても、被害を最小限に抑えられるよう河川整備工事にあわせて、氾濫区域内でのさらなる防災・減災対策が望まれるところです。

1. 工事の優先順位について

県では、堤防の強化や河道掘削のほかに、洪水調整施設として遊水池の整備や既存ダムを活用し、既存ダムを含む流域全体の治水量を確保するための新たな取り組みを実施しているところですが、新たにダムを新設する必要があるのか十分な検討

を行うべきと思います。

〈提 言〉

- ① 今後、台風等による降雨量と武庫川の整備状況を見ながらダムの新設も必要かどうかを注視・検討していく必要がある。
- ② 既存ダムの活用とダムの新設の検討に合わせて、遊水池の増設の検討・要望を行う必要がある。

2. JRより北の河床掘削工事について

現在、県では昭和36年6月27日洪水と同規模の流量である $3,510 \text{ m}^3/\text{s}$ を安全に流すための工事を進めています。

その中でも、南部橋からJR東海道本線の間、約3kmで流下能力が低いため河床掘削を行っているところです。

〈提 言〉

河道の流下能力の維持を図るためには、定期的な河床掘削が必要になってくると思います。現在、JR以北の河道については、整備計画目標流量が確保されていると思いますが、経年により土砂の堆積も考えられますので、県から河川の状況を定期的に収集し、必要に応じて要望を上げるべきと考えます。

3. 橋梁の橋脚について

県は、現在、武庫川下流にある南武橋の架け替え工事を行っています。

この新設橋は、河川の流量を確保するため、既存の橋に比べ橋脚の数を減らしたものになっています。したがって、橋の橋脚は、川の流れに対する障害物であるとも取れます。

〈提 言〉

武庫川には、南武橋以外に川を横断する既存の施設（鉄道・高速道路など）あることから、既存施設の架け替えを行う際には、南武橋と同様に橋脚の数が減るのかどうか注視する必要があると考えますので十分に県との連携を密にすること。